



お話の学習指導案



教育目標

題名

・ しらぎ(シルラ)をあいしたうみの王、チャン・ボゴ

年齢

・ 児童(6~9歳)

主題

- ・ 目標：しらぎ(シルラ)のうみをまもるために、かえってきたチャン・ボゴのゆうきについてならう。
- ・ 主題：ゆうき

キーワード

- ・ ゆうき、チャン・ボゴ、クンボク、りょうし、しらぎ(シルラ)、とう(唐)、チョンヘジン、かいぞく、かいじょうぼうえき

韓国文化

- ・ 目標：しらぎ(シルラ)、とう(唐)、日本とのかいじょうぼうえきにきょうみをもつ。
- ・ 要素：しらぎ(シルラ)、とう(唐)、日本のかいじょうぼうえき

韓国語

- ・ 目標：はんたいことばになれて、たのしくひょうげんする。
- ・ 単語：넓다-좁다(ひろい-せまい)、크다-작다(おおきい-ちいさい)、많다-적다(おいおい-すくない)
- ・ 表現：
넓은 바다-좁은 땅
(ひろいうみ-せまいとち)
키가 크다-키가 작다
(しんちょうがたかい。-しんちょうがひくい。)
물이 많다-물이 적다
(みずがおおい。-みずがすくない。)



口演 活動内容



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、こんにちは！
みなさん、こんにちは。わたしはみなさんにたのしいお話を‘○○○’、
うつくしいお話のおばあちゃんです。



題名 を教える

今日、おばあちゃんがするお話は、タイトル、さっさと出てこい！

“しらぎ(シルラ)をあいたうみの王、チャン・ボゴ”です。

みなさんはうみをみたことがありますか？だいかんみんこくはひがしがわ、にしがわそしてみなみがわがすべてうみでかこまれています。そのよううみでさかなをつかまえる人をりょうしといいます。しかし、しらぎ(シルラ)ではりょうしだったがゆめのためにひろいうみをこえてとう(唐)へいき、しょうぐんになった人がいます。その人はしらぎ(シルラ)のうみをまもるためにふたたびもどってきます。まさにチャン・ボゴです。どんな人なのかをみてみましょう。



お話の始まりの歌を歌う

“しらぎ(シルラ)をあいたうみの王、チャン・ボゴ”のお話の中へしゅっぱつ！

♪ いち にい さん し！ お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきいてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんぴはできましたか？
いち にい さん し！ しゅっぱつします。パンパン～

口演 活動内容



お話を聞かせる

むかし、しらぎじだいにうみべにりょうしのかぞくがすんでいました。りょうしにはげんきなむすこがひとりいました。むらの人びとはこのこどもをクンボクとよびました。‘クンボク’はゆみをじょうずにうつ子どもといういみです。クンボクはゆみをじょうずにうつだけではありませんでした。すいえいもじょうずでした。

やさしくて、おとうさんをよくたすけました。ふねにのってとおくに出て、いっしょにさかなをつかまえました。

“おとうさん、このうみはどれぐらいひろいのですか？あのうみのはしにいけば、なにか出てきますか？”

こうきしんがおおいクンボクはうみに出るたびにおとうさんにとまらずしつもんをしました。

“ほほほ。うみはとてもひろいのだ。わたしたちがすむりくよりもひろいのだよ。このうみをこえて、またほかの国が出てくるのだ。”

おとうさんはきになることがたくさんあるクンボクをほほえましくみつめました。

“おとうさん、わたし大きくなったらゆみがじょうずなぐんじんになりたいです。ふねにのってとおくの国ぐにをいったりきたりして、しょうばいもしたいです。またかんこくのうみをまもるしょうぐんになりたいのです。”

口演 活動内容



お話を聞かせる

クンボクは目をかがやかせていました。

おとうさんはそんなむすこがほこらしかったです。

“そうだな。おまえのゆめがかなうといいなあ。しかし、しらぎにはりょうしのむすこに生まれれば、一生りょうしとして生きていくしかないのだ。”

クンボクはりかいができませんでした。そして、またたずねました。

“ほかの国でもそうなのですか？”

ずっとしらぎで生きてきたおとうさんは、ちゃんとへんじをすることができませんでした。

“よくわからないんだ。しかし、ほかの国にはほかのほうりつがあるのだろう。”

いつのまにかじかんがすぎ、クンボクは大人になりました。しんちょうもたかくなり、たいかくもよくなりました。ゆみをひいてうまにのり、やりをなげるうでまえは、ひましにりっぱになりました。そうなるにつれて、クンボクはじぶんのゆめをかならずかなえたいとおもいました。そしてクンボクは、おかあさんとおとうさんにしらぎを出てゆめをかなえたいといいました。りょうしんはむすこをとおいばしょにおくるのがしんぱいになりました。また、さみしくもありました。しかし、クンボクはしたいことをおもうぞんぶんさせてほしがりました。

口演 活動内容



お話を聞かせる

そしてクンボクはともだちといっしょに中国のとうにわたりました。

とうにいったクンボクは、すぐれたぶじゅつのうでまえのおかげで、ほんとうにゆめにみたしょうぐんになりました。なまえは'チャン・ボゴ'とあたらしくつけました。チャン・ボゴしょうぐんは、ぶかたちにもいつもそんけいされた人でした。

そんなある日にチャン・ボゴがうまにのってみちをすすんでいるところでした。とおくからさわがしい音がきこえたので、そちらにしてみました。そこではしらぎの人びとが、むりにつれていかれているところでした。チャン・ボゴはそのようすをみて、とてもおどろきました。

“いや、どうしてこの人びとをむやみにつれていくんだ!”

チャン・ボゴはいかついかおをした、とうのおとこたちにむかってさけびました。そうすると、とうのおとこたちがあざわらっていました。

“おれたちのかってだろ!しもべにしてやるぞ!”

チャン・ボゴはいかりをおさえきれませんでした。そしてそのおとこたちをこらしめました。じつはそのおとこたちはとうのかいぞくたちでした。しらぎにかってにせめこんできて、村の人びとのこくもつやしなじなをぬすんできたのです。それでもたりずにしらぎの人びとまでもむりやりにつれてきたのです。チャン・ボゴにおこられたかいぞくたちは、こわくてぶるぶるとふるえて

口演 活動内容



お話を聞かせる

にげていきました。しらぎの人びとをぶじにすくったチャン・ボゴは、やっとたずねました。

“いったい、いましらぎではなにがおこっているんですか？”

しらぎの人びとはなみだぐみました。

“とうのかいぞくたちはいつでも村にせめこんできます。ふねにのってかっにはいってきてはものをぬすんで、このようにやたらめったらに人びとをつれていきます。わたしたちだけではなく、うみべにすんでいる人びとはいつもおそろしさにふるえています。いつこうげきされるかわからないですからね。”

チャン・ボゴは、あの日にとうにつれてこられたしらぎの人びとがどれぐらいいるのかをしらべました。そしてすぐさま、またしらぎにかえることをけっしんしたのです。しらぎにかえってしらぎの人びとをかならずまもろうというのです。

“おい、おれはこれからしらぎにかえるよ。どんな国もしらぎをいじめないようにうみをまもるのだ。”

チャン・ボゴのはなしにいっしょにとうにきたともだちもうなずきました。

“きみのかんがえがそうなら、わたしもいっしょにいくよ。”

口演 活動内容



お話を聞かせる

しらぎにかえってきたチャン・ボゴは、すぐさましらぎの王にあいにいきました。チャン・ボゴはお王さまにうみべのたみたちがけいけんしたことをくわしく知らせました。

ちょうど王さまもかいぞくたちがうみべにあらわれるので、とてもこまっていた。そのためにチャン・ボゴにうみをまもるしごとをまかせることにしました。

けっかとして、チャン・ボゴはしらぎでうみをまもるしょうぐんになりました。小さいころのゆめがかなったのですね。

チャン・ボゴは今日のぜんらなんどうのワンドにチョンヘジンというぐんじきちをせっちして、へいしたちがとどまるようにめいれいしました。そしてかいぞくやてきぐんがちかづくことができないようにまもったのですね。チャン・ボゴはうみのみちをあんぜんにしたあとに、中国のとうと日本をつなげるぼうえきもして、とてもお金もちになりました。

チャン・ボゴのおかげで、しらぎの人びとはゆったりとへいわにくらすことができたそうです。

口演 活動内容



韓国文化, 韓国語を紹介する

みなさん、おばあちゃんがしたお話をよくききましたか？チャン・ボゴの子どもときのなまえはなんでしたか？はい。クンボクでしたね。クンボクはしょうぐんになるために、しらぎ(シルラ)を出てどの国にいましたか？

はい。ひろいうみをこえて、とう(唐)にいました。このとき‘ひろい(ノルタ)’のはんたいことばは‘せまい(チョプタ)’です。そして‘しんちょうがたかい(キガクダ)’のはんたいことばは‘しんちょうがひくい(キガチャクタ)’です。そしたら‘水がおおい(ムリマンタ)’のはんたいことばはなんですか？はい。‘水が小さい(ムリチャクタ)’です。みなさんもかぞくとたのしくはんたいことばをさがして、ひょうげんしてみてください。

チャン・ボゴはとう(唐)からしらぎ(シルラ)になぜかえってきましたか？

そうですね。チャン・ボゴはとうのかいぞくたちにつれてこられたしらぎ(シルラ)の人びとのすがたをみて、しらぎ(シルラ)の人びとをまもるためにかえってきたのですね。チャン・ボゴはチョンヘジンというぐんじきちをつくって、かいぞくをふせいでとうとしらぎ(シルラ)、そして日本をつなぐかいじょうぼうえきもおこないました。今は5月31日を‘うみの日’ときめて、チャン・ボゴがぜんらなんどうのワンドにチョンヘジンをせっちした日をきねんしています。そしてまいとし5月にぜんらなんどうのワンドで、チャン・ボゴにかんれんしたおまつりもしています。チャン・ボゴにきょうみがあるおともだちは、‘どらんどらんお話ホームページ’でくわしいないようをしらべてみてね！

口演 活動内容



お話を整理する

みなさん、おばあちゃんと“しらぎ(シルラ)をあいたうみの王、チャン・ボゴ”のお話をまとめてみましょう。

チャン・ボゴはじぶんのゆめをかなえるためにしらぎ(シルラ)からとう(唐)にいて、しょうぐんになりました。しかし、とう(唐)でかいぞくたちにつれていかれたしらぎ(シルラ)の人びとをみて、しらぎ(シルラ)にもどってうみをまもるしょうぐんになりましたね。人びとはチャン・ボゴを‘うみの王’とよんだといいます。みなさんのゆめはなんですか？そして、どんなどりよくをしているのかをかぞくやともだちとお話してみましょう。



お話のあとのうたをうたう

そしたら、お話のおわりのうたをいっしょにうたいながら、おばあちゃんとあいさつします。お話のおわりのうた、はじまり！

🎵 いち にい さん し！お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきいてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？
いち にい さん し！ しゅっぱつします。パンパン～



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、ごあいさつ！

みなさん、つぎのうつくしいお話のおばあちゃんであいましょう。

さようなら！